

京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程入学試験問題(例)

# 1次試験 専門科目

## (32. 外国語教育論)

(注意) 解答は、設問(ローマ数字の I、II、III……)ごとに別の解答用紙を用いること。

<解答する問題と配点について>

- (1) 問題はIからIVまであります。どの受験者も、すべての問題に解答しなさい。
- (2) 配点は、どの問題も50点ずつです。

<解答言語について>

- (1) 「外国語教育論講座」を志望し、英語教育学を専攻する受験者は、英語で解答しなさい。
- (2) それ以外の受験者は、日仏英のいずれかで解答しなさい。

<解答の仕方について>

- (1) 論述に必要な用語は、明示的に定義して使いなさい。
- (2) 論述に必要な理由と例は、具体的に示しなさい。
- (3) 論述に必要な観点や限定条件などは、個々の問題で指定がない限り、自分で設定しなさい。
- (4) 各問題をどのように限定するか広げるか、すなわち何を重要としているかも評価の対象にします。定義の仕方や論証の仕方も評価の対象にします。
- (5) 是か非か、あるいは必要か否かを論じる問題では、どちらの立場をとるかは評価の対象にしません。
- (6) 解答は、問題ごとに別々の解答用紙を使い、問題ごとに表と裏を合わせて2ページ以内で完結させなさい。

問題 I

外国語学習を開始する年齢の低年齢化について、その功罪を述べなさい。

問題 II

言語教育論や言語習得論、言語政策論などの知見に基づいて、TOEFL®等の外部試験において一定以上の成績を修めることを大学の受験資格、または卒業要件とすることの是非について述べなさい。

問題 III

外国語教育において文学を教材として使うことの利点と問題点を、具体的な例を挙げながら述べなさい。

問題 IV

Do you think that social media can be used effectively to improve language proficiency? Explain with details.